

---

# ウソつきオオカミ

エイト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ウソつきオオカミ

### 【コード】

N0043N

### 【作者名】

エイト

### 【あらすじ】

早川クルスと獅子野恭介の学園生活。

## プロローグ

ここは風間中央学園一年の教室。

「ミッションを説明する」

何時も通り幼馴染みが話し始める。こいつの名前は獅子野恭介、ありとあらゆる面で天才で俺達のリーダーだ。

「敵は俺達の宝を奪い自分の机にしまい鍵を掛けた。俺達は敵から宝を奪還する」

女子からの冷たい視線の中もう一人の幼馴染み、沖田晴幸あだ名はハルが恭介に聞いた。

「どうやって奪還するんだ？」

恭介が不敵に笑う

「大丈夫だ。敵には弱点がある。それを利用する」

その言葉に教室中が驚く。さっきまで知らん顔していた女子もだ。女子グループのリーダー的存在でこれまた幼馴染みの立花美鈴が恭介を止めようとす。

「ダメよ！恭介、人としてダメよ」

しかし、顔は笑っていてやれと言っている。

「それじゃあ説明する。クルスがターゲットに虫をぶちまける。慌てるターゲットをハルが殺虫剤とライターを使って助ける。そして俺が危険だとターゲットに水をぶっかける。着替えてる隙にターゲットの机から宝を奪い返す。ピッキングと奪還はジミーに頼む。完璧だ」

俺とハルは口を揃えて叫ぶ。

「無理だっつっ！！」

そんな中、ジミーこと山田太郎は頷いた。

「火の虫、水の虫作戦。ミッション・スタートだ！」

「嫌だあああっ！！」

武田鉄雄は階段を降りていた。さつきから何故か不安感を抱いている。それが何かは自分でもまだ判っていないかった。

恭介からメールが来た。

「ターゲット接近！各自健闘を祈る」

俺達の闘いが始まった。

最初は俺だったな……………

もうすぐ階段から降りてきた武田が来る……………来た！

俺は走り勢いよく武田にぶつかる。

「うわあああ！ 武田先生どいて下さい！」

「何だああ？ 虫いいいい！！」

武田鉄雄は青ざめて固まった。そこへハルがやって……………来なかった。

おい、どうすんだ！ ハルはまだか？ さすがに可哀想だぞ。

そしてバカがダイナマイトを持ってきた。

「武田死ねえええええ！！」

ようやく武田鉄雄は動いた。

「殺す気かバカ！？」

構わずダイナマイトを投げる。爆発で扉や壁が壊れる。恭介からメールが来た。

「後は任せた」

「いや。無理だ！！」

しばらくしてジミーからメールが来た。

「任務完了」

よし。俺も逃げる。

虫がいなくなって完全に復活した武田鉄雄は一発でバカを止めた。そして去ろうとした俺を捕まえる。

「何処に行く？ 早川クルス。お前は沖田晴幸と一緒に俺と楽しいデートだ」

「嫌だあああつ！！」

補習が終わり、メールをみる。

「お前達の宝は俺が持っている俺の家で返すから帰りに来い」  
解ったと恭介にメールを返す

「それじゃあ行くかバカ」

「バカとは何だ、バカとは」

「ダイナマイトを使うのはバカだ」

ハルは何も言えなくなった。

俺達は恭介を中心にいつもバカ騒ぎをしていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0043n/>

---

ウソつきオオカミ

2010年10月28日06時54分発行